

【参考資料2】事業内容、事業の効果に関する写真

特定非営利活動法人 地球のステージ

案件名：ガザ地区における聴力障がい児童および危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア事業



2014年2月：桑山専門家によるセミナー



2014年2月：写真言語



2014年3月：描画ワークショップ



2014年4月：宗貞専門家ワークショップ参観



2014年4月：粘土ワークショップ



2014年10月：音楽ワークショップ



ワークショップ前のウォームアップ



聴覚障害児の話し合いの様子

【参考資料2】 事業内容、事業の効果に関する写真



2014年6月：桑山専門家によるワークショップ指導



2014年6月：ジオラマワークショップ

2014年9月：戦後特別プログラム



↑まずは輪になって自由に語ることから



↑「がれきから人の手が見えた。この人は助からなかった。」



↑空爆でまた誰かを失うのが怖くて、ずっと心にしまっていた
亡くなったお父さんの事を描き、語る事ができた。



↑忘れられない光景、自宅の前で爆撃された車(13歳女子)



2014年10月：石橋専門家スタッフ指導



2014年10月：音楽ワークショップ

【参考資料2】 事業内容、事業の効果に関する写真



2014年11月：音楽レコーディング



2014年12月：演劇ワークショップ

●子どもたちの変化

8歳男児の作品「サッカーをすることが好き」回を重ねて立体表現ができるようになった。(2014年4月)



粘土細工第1回目小麦粘土を使用



粘土細工第3・4回目紙粘土を使用し彩色

16歳聴覚障がい生徒、多動性の要素があり学校は対応に苦慮していた。ケアクラスに参加し、生活態度と対人関係が改善された。



2014年3月、ケアクラスに興味を持ち始める。

笑顔が見られないことが教員の懸念事項であった。



2014年10月、友人とも打ち解け、笑顔が見られるように(左)

13歳聴覚障がい生徒。辛かった空爆の出来事を、大好きな音楽をきっかけに整理ができるように。



2014年8月、自宅を爆撃され本人も火傷を負う



2014年10月音楽WS、元気いっぱいケアクラスに復帰(右)